

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年11月10日
【四半期会計期間】	第65期第2四半期（自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日）
【会社名】	アピックヤマダ株式会社
【英訳名】	APIC YAMADA CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 押森 広仁
【本店の所在の場所】	長野県千曲市大字上徳間90番地
【電話番号】	026 - 275 - 2111（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役企画部長 小出 篤
【最寄りの連絡場所】	長野県千曲市大字上徳間90番地
【電話番号】	026 - 275 - 2111（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役企画部長 小出 篤
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第64期 第2四半期連結 累計期間	第65期 第2四半期連結 累計期間	第64期
会計期間	自平成28年4月1日 至平成28年9月30日	自平成29年4月1日 至平成29年9月30日	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
売上高 (千円)	4,692,518	4,699,361	11,098,431
経常利益又は経常損失 () (千円)	302,567	247,545	396,920
親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期 純損失 () (千円)	329,464	429,373	335,246
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	557,247	425,967	245,702
純資産額 (千円)	2,892,405	3,269,388	3,695,355
総資産額 (千円)	12,535,108	12,488,779	12,477,924
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は1株当たり四半期純損失 金額 () (円)	26.53	34.57	26.99
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	23.1	26.2	29.6
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	1,510,885	97,472	746,998
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	71,813	206,692	89,208
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	128,435	281,387	36,600
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	1,955,502	2,565,345	2,592,015

回次	第64期 第2四半期連結 会計期間	第65期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成28年7月1日 至平成28年9月30日	自平成29年7月1日 至平成29年9月30日
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり 四半期純損失金額 () (円)	8.45	0.90

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 過年度において不適切な会計処理が行われていたことが判明したため、第64期第2四半期連結累計期間の主要な経営指標等は訂正後の決算数値を記載しております。
4. 第64期第2四半期連結累計期間及び第65期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第64期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

なお、過年度において不適切な会計処理が行われていたことが判明したため、過年度の決算訂正を行い、平成29年7月31日に、第64期第2四半期（自平成28年4月1日至平成28年9月30日）の四半期報告書の訂正報告書を提出しております。これにより、前年同四半期数値及び前年同四半期比につきましては、訂正後の数値をもとに記載しております。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、引続き政治的リスク、地政学的リスクが懸念されますが、欧米では内需の底堅さなどから景気回復が続いており、中国は各種政策の効果により景気は持ち直しの動きが見られ、新興国経済も総じて穏やかな回復傾向が続きました。一方、わが国経済も、個人消費は依然弱いものの、企業収益及び雇用環境の回復により、穏やかな回復基調で推移してまいりました。

こうした環境の中で、当社グループの主たる供給先である半導体業界は、需要の旺盛なフラッシュメモリを中心に設備投資が拡大し、また中国においては、国の支援もあり半導体メーカーの設備投資が本格化してきております。また、自動車業界に関しては、自動車の高機能化による電子制御装置の増加や、電気自動車・ハイブリッド車の増加により、車載用センサーやインバーターをはじめとする電子部品需要が拡大するとともに、需要先も国内から欧州、アジアの車載半導体関連メーカーに拡大し堅調に推移しております。当社は車載向けを想定して開発した大型モジュール用モルディングシステム「GTM-170T」及び高速デバイスマウンター「ADM-2000」など好調な動きとなっております。

一方、スマートフォン向けに関しては、当社が開発したWLP（ウェハーレベルパッケージ）用コンプレッションモールド装置の「WCM-300L」は、スマートフォン向けCPU等先端パッケージに加え、新たにメモリーにも採用されるなどその用途が拡大するとともに、多くの半導体メーカーより引合いをいただいておりますが、一時的なスマートフォンの在庫調整の影響を受けて投資の先送り等により受注は、想定を下回りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は4,699百万円（前年同四半期比0.1%増）、営業損失は243百万円（前年同四半期は営業損失283百万円）、経常損失は247百万円（前年同四半期は経常損失302百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は429百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失329百万円）となりました。セグメントの業績は次のとおりであります。

電子部品組立装置

電子部品組立装置の受注環境は、車載向け装置はマーケットの拡大とともに引続き順調な動きとなっております。一方、当社が強みとしているWLP（ウェハレベルパッケージ）を始めとする高機能向けスマートフォンのパッケージ向け装置に関しては、中国を中心にスマートフォンの在庫調整が発生したこと、その後のスマートフォンの新製品の動きも期待を下回る動きとなっていることから、引き合いは強いものの、顧客メーカーの投資判断が遅れており、当初想定を下回った動きとなっております。

また、景気の回復とともに装置に使用する部材の調達が長期化していること、売上を計上するための検収の基準等を厳格化して運用していること等により、納期および売上の遅延が発生しており、売上及び利益は当初想定を下回りました。

この結果、売上高は3,928百万円（前年同四半期比0.0%減）、セグメント利益は64百万円（前年同四半期比41.1%減）となりました。

電子部品

半導体等向けのリードフレームに関しては、底打ちの傾向が見られましたが、銅材等の資材価格が値上がりし、損益面で影響を与えました。一方、前連結会計年度に実施したLPS（LEDプリモールド基板）事業の人員を含む生産体制の大幅な縮小により、赤字幅は縮小いたしました。

この結果、売上高は567百万円（前年同四半期比3.4%増）、セグメント損失は50百万円（前年同四半期はセグメント損失104百万円）となりました。

その他

その他につきましては、リード加工金型及びリードフレーム用生産金型の販売であります。リードフレームを使用する半導体の設備投資につきましてはマーケットが限られており、また、リード加工金型は当面の需要の一巡感もあることから低調に推移しました。

この結果、売上高は203百万円（前年同四半期比5.5%減）、セグメント利益は28百万円（前年同四半期比162.4%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末と比較して26百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末には2,565百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、資金は97百万円の減少（前年同四半期は1,510百万円の減少）となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失の計上、棚卸資産の増加及び仕入債務の減少によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、資金は206百万円の減少（前年同四半期は71百万円の減少）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、資金は281百万円の増加（前年同四半期は128百万円の増加）となりました。これは主に短期借入金の増加によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、55百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	23,200,000
計	23,200,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年11月10日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	12,969,000	12,969,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 100株
計	12,969,000	12,969,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
平成29年7月1日～ 平成29年9月30日	-	12,969,000	-	5,837,500	-	-

(6) 【大株主の状況】

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
S M B C 日興証券株式会社	東京都千代田区丸の内3丁目3-1	805,400	6.21
株式会社八十二銀行 (常任代理人 日本マスタートラ スト信託銀行株式会社)	長野県長野市大字中御所字岡田178番地8 (東京都港区浜松町2丁目11番3号)	615,100	4.74
八十二キャピタル株式会社	長野県長野市大字南長野南石堂町1282番地11	402,000	3.09
田畑 利彦	兵庫県篠山市	326,100	2.51
アピックヤマダ従業員持株会	長野県千曲市大字上徳間90番地	323,520	2.49
KGI ASIA LIMITED-CLIENT ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行東京 支店)	41/F CENTRAL PLAZA, 18 HARBOUR ROAD, WANCHAI, HONG KONG (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	300,000	2.31
東京中小企業投資育成株式会社	東京都渋谷区渋谷3丁目29番22号	278,700	2.14
大久保 道代	香川県丸亀市	228,500	1.76
BANK JULIUS BAER AND CO., LTD. (常任代理人 株式会社三菱東京 UFJ銀行)	BAHNHOFSTRASSE 36, P.O. BOX 8010. CH- 8001, ZURICH, SWITZERLAND (東京都千代田区丸の内2丁目7-1 決済事業 部)	207,000	1.59
宮崎 美恵子	群馬県吾妻郡	200,000	1.54
計	-	3,686,320	28.42

(注) 上記のほか、自己株式が549,573株あります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 549,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,414,500	124,145	-
単元未満株式	普通株式 5,000	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	12,969,000	-	-
総株主の議決権	-	124,145	-

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の「株式数」及び「議決権の数」の欄には、証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ1,000株及び10個含まれております。

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
アビックヤマダ株式会社	長野県千曲市大字上徳間90番地	549,500	-	549,500	4.23
計	-	549,500	-	549,500	4.23

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 新任役員

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数	就任年月日
取締役	技術部長	川船 豊	昭和38年12月2日生	昭和57年4月 塩尻工業株式会社(現セイコーエプソン株式会社)入社 平成24年4月 同社センシングシステム事業部部長 平成28年9月 当社技術顧問 平成29年1月 当社技術部長(現任) 平成29年9月 当社取締役(現任)	(注)	-	平成29年9月1日

(注)平成29年9月1日開催の定時株主総会継続会の終結の時から平成30年3月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。

(2) 退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
取締役	精密部品製造部長	西澤 誠夫	平成29年9月1日

(3) 役員の異動

役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
取締役	-	常務取締役	製造部長	大屋 秀俊	平成29年9月1日

(4) 異動後の役員の男女別人数及び女性の比率

男性8名 女性0名(役員のうち女性の比率0%)

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について興亜監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査法人は、次のとおり交代しております。

第64期連結会計年度 有限責任監査法人トーマツ

第65期第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間 興亜監査法人

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,592,015	2,565,345
受取手形及び売掛金	2,419,331	1,779,517
商品及び製品	2,419,909	1,920,207
仕掛品	1,946,005	2,764,136
原材料及び貯蔵品	186,014	363,970
その他	141,920	172,381
貸倒引当金	510	510
流動資産合計	9,704,687	9,565,047
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	801,977	767,499
機械装置及び運搬具(純額)	299,336	358,065
土地	484,534	484,534
その他	164,211	255,124
有形固定資産合計	1,750,059	1,865,224
無形固定資産	65,286	98,763
投資その他の資産		
その他	962,327	963,094
貸倒引当金	4,436	3,350
投資その他の資産合計	957,891	959,744
固定資産合計	2,773,237	2,923,731
資産合計	12,477,924	12,488,779
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,313,412	2,084,517
短期借入金	2,934,000	3,328,000
1年内返済予定の長期借入金	173,410	163,270
未払法人税等	47,468	37,090
賞与引当金	114,086	133,983
製品保証引当金	48,272	65,654
前受金	1,371,486	1,611,015
その他	277,768	312,255
流動負債合計	7,279,904	7,735,787
固定負債		
長期借入金	637,100	557,300
退職給付に係る負債	702,048	689,695
その他	163,515	236,608
固定負債合計	1,502,663	1,483,603
負債合計	8,782,568	9,219,390

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,837,500	5,837,500
利益剰余金	1,734,381	2,163,755
自己株式	101,247	101,247
株主資本合計	4,001,870	3,572,496
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18,123	32,728
為替換算調整勘定	311,678	330,021
退職給付に係る調整累計額	12,959	5,815
その他の包括利益累計額合計	306,514	303,108
純資産合計	3,695,355	3,269,388
負債純資産合計	12,477,924	12,488,779

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位 : 千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年 9 月30日)
売上高	4,692,518	4,699,361
売上原価	3,820,145	3,809,780
売上総利益	872,372	889,580
販売費及び一般管理費	1,155,395	1,133,165
営業損失 ()	283,022	243,584
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,425	2,328
受取技術料	6,413	14,042
受取賃貸料	14,734	6,384
その他	16,729	18,909
営業外収益合計	40,303	41,664
営業外費用		
支払利息	36,371	37,352
持分法による投資損失	901	5,688
為替差損	14,601	-
その他	7,973	2,583
営業外費用合計	59,848	45,625
経常損失 ()	302,567	247,545
特別利益		
固定資産売却益	-	7,667
特別利益合計	-	7,667
特別損失		
固定資産売却損	244	7
減損損失	22,000	-
過年度決算訂正関連費用	-	166,652
特別損失合計	22,244	166,660
税金等調整前四半期純損失 ()	324,812	406,538
法人税、住民税及び事業税	4,955	13,228
法人税等調整額	302	9,606
法人税等合計	4,652	22,835
四半期純損失 ()	329,464	429,373
親会社株主に帰属する四半期純損失 ()	329,464	429,373

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純損失()	329,464	429,373
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11,617	14,605
為替換算調整勘定	141,579	9,241
退職給付に係る調整額	5,012	7,144
持分法適用会社に対する持分相当額	102,833	9,101
その他の包括利益合計	227,782	3,406
四半期包括利益	557,247	425,967
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	557,247	425,967

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	324,812	406,538
減価償却費	130,792	135,403
減損損失	22,000	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	510	1,086
賞与引当金の増減額(は減少)	5,307	20,598
製品保証引当金の増減額(は減少)	1,936	17,381
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	20,598	5,212
受取利息及び受取配当金	2,425	2,328
支払利息	36,371	37,352
為替差損益(は益)	11,880	2,761
持分法による投資損益(は益)	901	5,688
固定資産売却損益(は益)	244	7,659
固定資産除却損	2,296	9
売上債権の増減額(は増加)	1,040,760	636,390
たな卸資産の増減額(は増加)	210,963	500,161
未収消費税等の増減額(は増加)	43,980	39,901
その他の流動資産の増減額(は増加)	65,310	6,911
仕入債務の増減額(は減少)	794,865	205,113
その他の負債の増減額(は減少)	762,308	281,747
その他	-	1,086
小計	1,441,204	22,670
利息及び配当金の受取額	2,425	2,328
利息の支払額	36,016	37,325
法人税等の支払額	36,090	39,804
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,510,885	97,472
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	70,326	214,574
有形固定資産の売却による収入	68	7,711
無形固定資産の取得による支出	1,478	2,455
出資金の払戻による収入	-	2,260
その他の支出	834	106
その他の収入	756	473
投資活動によるキャッシュ・フロー	71,813	206,692
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	284,000	394,000
長期借入金の返済による支出	126,744	89,940
自己株式の取得による支出	303	-
ファイナンス・リース債務の返済による支出	28,517	22,672
財務活動によるキャッシュ・フロー	128,435	281,387
現金及び現金同等物に係る換算差額	50,845	3,892
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,505,109	26,669
現金及び現金同等物の期首残高	3,460,611	2,592,015
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,955,502	2,565,345

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
従業員給与手当	385,071 千円	373,443 千円
賞与引当金繰入額	27,787	30,091
退職給付費用	33,036	32,767
製品保証引当金繰入額	20,131	41,694

2 減損損失

前第2四半期連結累計期間において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	場所	種類	金額(千円)
事業用資産	アピックヤマダ株式会社 吉野工場	建物、機械装置、土地等	22,000

当社グループは、事業用資産については、工場ごとにグルーピングしております。

事業用資産のうち、電子部品事業に供している吉野工場について収益環境が悪化したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少価額を減損損失として特別損失に計上しております。その内訳は、建物及び構築物3,281千円、機械装置及び運搬具8,606千円、土地3,564千円、リース資産5,487千円、その他固定資産1,059千円です。

なお、当該資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、処分価額又は鑑定評価額であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
現金及び預金勘定	1,955,502 千円	2,565,345 千円
現金及び現金同等物	1,955,502	2,565,345

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	電子部品 組立装置	電子部品	その他 (注)	
売上高				
外部顧客への売上高	3,928,385	548,919	215,213	4,692,518
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,409	3,092	78	5,579
計	3,930,795	552,011	215,291	4,698,098
セグメント利益又は損失()	110,162	104,158	10,945	16,949

(注)「その他」の区分は、リード加工金型及びリードフレーム生産用金型の調達・販売等を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	16,949
セグメント間取引高消去	-
全社費用(注)	299,972
四半期連結損益計算書の営業損失()	283,022

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「電子部品」セグメントにおいて固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては22,000千円であります。

当第2四半期連結累計期間（自平成29年4月1日 至平成29年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			合計
	電子部品 組立装置	電子部品	その他 (注)	
売上高				
外部顧客への売上高	3,928,383	567,557	203,420	4,699,361
セグメント間の内部売上高又は振替高	156	1,633	75,821	77,610
計	3,928,539	569,190	279,242	4,776,972
セグメント利益又は損失()	64,835	50,244	28,719	43,310

(注)「その他」の区分は、リード加工金型及びリードフレーム生産用金型の調達・販売等を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	43,310
セグメント間取引高消去	-
全社費用(注)	286,895
四半期連結損益計算書の営業損失()	243,584

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	26円53銭	34円57銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額() (千円)	329,464	429,373
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失金額() (千円)	329,464	429,373
普通株式の期中平均株式数(千株)	12,420	12,419

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月7日

アピックヤマダ株式会社

取締役会 御中

興 亜 監 査 法 人

指 定 社 員 公認会計士 武田 茂 印
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公認会計士 柿原 佳孝 印
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアピックヤマダ株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アピックヤマダ株式会社及び連結子会社の平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

会社の平成29年3月31日をもって終了した前連結会計年度の第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して平成29年7月30日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して平成29年7月31日付けで無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。